

和歌山病院での実習を終えて



櫻井 悠樹

今回、和医大第3内科の臨床実習の一環として、和歌山病院で2日間、病院実習をさせていただきました。県内唯一の結核病棟をもつ病院ということで、結核の基本的事項から、実臨床における結核患者への対応まで教えていただき、結核病棟の見学もさせていただきました。また結核のみならず、広く胸部 X 線の読影、酸素療法、人工呼吸器などご講義いただき、大変充実した二日間となりました。

私が、実習より以前、勝手ながら、結核病棟に対して持っていたイメージは、医療者側は、マスクだけでなく、手袋・ガウン着用の完全防備をし、患者が触れたものもすべて適切に廃棄して、自身への感染に大変神経質になりながら患者と日々接するというものでした。もちろん、医療者サイド、他患者への感染予防には細心の注意が払われますが、結核の感染様式は空気感染であり、接触感染はなく、適切に管理された施設の下で、医療者側が N95 マスク、患者側がサージカルマスクをつけていれば結核予防としては十分であるということを、その根拠とともに教えていただきました。実際に見学させていただいた結核病棟も、非常に明るく、隔離閉鎖された空間とは感じませんでした。感染予防は重要ですが、過剰な予防対策は、かえって患者を不安にさせます。必要十分の感染予防対策をしっかりと理解し、実践していくことが重要だと感じました。

また今回、非常に大きな収穫と感じたのは、南方院長から教えていただいた胸部 X 線の読影です。それまでのポリクリでの胸部 X 線といえば、指導医の先生のカルテをみてから、なんとなくながめ、「特記事項なし」と所見をつけているのが実情でした。しかし、今回の実習では、レントゲンの原理・原則から、論理的に考えることを徹底してトレーニングしていただき、それまでの胸部 X 線への苦手意識が大きく払拭されました。また、講義を通して、普段覚えることばかりに終始していた自分の勉強を反省し、医学においては特に、論理的に考える勉強が重要であることを痛感しました。

最後になりましたが、南方院長、駿田副院長をはじめ、今回の実習にご協力してく

ださった皆さまに改めて感謝申し上げます。今回、和歌山病院で学んだことを、今後の他科での実習、さらには自身の将来にしっかりと還元し、「いい医者」を目指して、がんばっていきたいと思います。ありがとうございました。